

播磨 まちかどニュース

With いなみ野学園



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BANテレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園 9 6

「卒業式」 & 「小野のおひな様」

◆配信日：令和7年4月1日◆



3月5日(水)は二十四節気の「啓蟄」でした。生き物たちが眠りから覚め、「春がきたよ」とモゾモゾと動き出し、土の中から顔を覗かせてキョロキョロとして。ちゃんと春の訪れがわかっているのだからスゴイですね。草花や樹木たちも同じです。固いつぼみからほっこりと花開かせて、芳しい匂いを添えて咲く紅梅・白梅も。学園の大講堂北にはその紅梅・白梅が・・・。



その大講堂で、令和7年2月28日(金)に、いなみ野学園の「修了式・卒業式」が行われました。午前10時から始まった「修了式・卒業式」では、初めに大学院講座50名の「修了式」です。最後は、長尾一男大学院自治会会長が総代として学園長から証書を授与されました。



続いて大学講座161名の卒業証書授与式です。山則泰隆大学自治会副会長が学園長から証書を授与されました。



坂本哲也生きがい創造協会理事長兼いなみ野

学園長の式辞があり、学園長は、「卒業後も好奇心を持って学び続けてほしいこと、人や地域につながりを持ってほしいこと」と話されました。知事の祝辞代読、祝電披露などが続き、いよいよ式も終わりを迎え、在校生を代表して川西詔夫(のりお) 大学自治会副会長の送辞です。川西自治会副会長からは、「率先垂範、手本になってかけがえのないものを残してくれました」と話され、それに応えて、藤村清春大学自治会会長が謝辞を述べられました。「四肢に障害を持つメイヤーさんのキリマンジャロ、アコンカグア登頂を例えに、諦めさえしなければ何でもできる」と、後輩たちへエールを送られました。最後は全員で大講堂に響きわたる声で「学園歌」を歌い、名残惜しい思いを胸に「修了式・卒業式」を無事終えることができました。



続いての話題。ほっこりした春を感じさせてくれるのは3月3日の雛祭りではないでしょうか。そこで飾られるのが雛飾り。実は、毎年、小野市で開かれている「ビッグひなまつり」が小野市立好古館を会場に行われました。今回で14回目。中に入るとその雛飾りの多さに圧倒されました（何と 83 組 702 体が展示）。



浄土寺の国宝「阿弥陀三尊立像」の写真をバツ

クに飾られた雛飾り。何段もの高さにぎっしりと並べられていて、それは見事でした。

庶民にも雛祭りが広がったのは江戸時代になってから。元禄時代以降は段飾りが行われるようになり、江戸末期からは現在の五段、七段飾りが行われるようになったそうです。

続いて隣の部屋に移って、ここからは粕谷修一副館長から説明を受けました。「展示会の準備作業は2週間前から取り組み、7名のボランティアの方たちにも丸2日間協力をしていただいた」とのことでした。また、「男雛が右、左と並び方が代わっているの也有ります。

その訳は、大正天皇がご成婚の時、洋服姿だったので西洋風の立ち方に代わった。つまり大正時代を境に並び方が代わった」とのことでした。



隣の部屋の藩主一ツ柳家の雛飾りについても説明してくれました。「小野藩最後のお殿様に輿入れされた時に京都からきた人形、それが一ツ柳家の雛飾りです」と。一体一体を精巧に精魂込めて作り上げたものばかり。さすがに藩主一ツ柳家の雛飾りは違いますね。めでたい長寿の象徴の鶴も、飾り雛の仲間に入っていました。人形はみな上品なお顔で、作り手の



技の凄さが感じられるものばかりでした。ここで一句、「いつの世も 我が子に尽くす 親の愛」、そんな親の願いを込めての雛飾りだったのでしょね。

（ナレーション:吉川 千代子）

「いなみ野学園絵画クラブ&小林先生個展」

◆配信日：令和7年4月16日◆



「三寒四温」、寒さが続いた後に少し暖かくなり、またしばらく寒さが続く。これをくり返しながら、春がやってくる。待ち遠しい春がいよいよそこまで来ているようです。学園まで



の道すがら、あるお宅の庭に咲く梅の花やかわいい水仙の花が顔を覗かせていて、ちょっとその匂いを嗅いで

みました。ああ、ほんのりと芳しい香りが鼻について。「いいなあ、春は。早く来い来い春よ来い」、そんなウキウキ気分で今日は絵を見たいと思います。

始めは、いなみ野学園絵画クラブの様子を紹介しましょう。毎週水曜日のお昼から、いなみ野学園普通教室（1教室と3教室）、ここで室内の制作活動を行っています。野菜や花、静物、人形などのモチーフを描いたり、時にはモデルに来てもらって人物画に挑戦したりもしながら、部員のみなさん一人一人が腕を磨き合っています。



当日（3月19日）は、「人形」をモチーフに真剣に対象物に向き合いデッサンをしていました。しっかり下描きをして、それから絵具を塗るそうです。みなさん一点集中で鉛筆を走らせていて、声掛けするのがはばかれるほどでした。「人形」を描く人と併せて、自分の課題に取り組む方も。油絵で大作に挑んでいました。



小一時間ほど過ぎたところで、絵画クラブ伊藤次郎部長にインタビューしてみました。



絵画クラブ部長
伊藤次郎さん

「ただ今部員は25名。私が絵を描き始めて9年目に。今、水彩画と油絵の中間のアクリル画を主に描いています」とのことでした。もう一人クラブ員の中島久子さんへもインタビューしました。「油絵をずっと描いてきて8年目に。人物画や動物などそれぞれの表情を描くのが好きです」と答えてくれました。



いなみ野学園絵画クラブで指導をする小林勝之さん

実は、絵画クラブを指導されている小林勝之先生は、ちょうどその期間に「個展」を開催されていました。



個展開催の場所は、JR 加古川駅の南、歩いて5分のところにある「加古川プラザホテル」。その地下にある「加古川倶楽部」が会場でした。小林先生の作品 20 点近くが展示されいて、4月15日までの開催でした。

小林勝之さんは、日展や光風会展、兵庫美術家同盟展など各種美術展で入選される実力の持ち主です。また、2018 年よりいなみ野学園絵画クラブの講師も担当され、クラブ員の指導に当たってくれています。ご本人にインタビューしてみました。「絵画歴は50年くらい。30歳の時に何かの区切りをつけたいと一念発起して絵を始めた。私はイメージを大事にして描くことが多い。例えば「祭り」では、だんじりなどの装飾と祭りの人物を組み合わせ

祭りの雰囲気をつくり出す。そのように頭にイメージしたものをキャンパスに描いています」とのことでした。インタビューから、これまで大きな物は100号サイズを描いたと言っていました。これだけ大きな作品は「1年を要して」とのことですが、それを続ける熱量と根気が本当に凄いなあとと思いますね。

今回は絵画クラブの活動と小林先生の個展を紹介しました。活動時、描き始めはみなさん一点集中で黙々と鉛筆を走らせていましたが、この緊張感がいいのでしょうか。「絵が好き」と言う仲間と一緒に、モチーフに向かい合い、静かにまた楽しそうに、そんな心地よい時間が流れていくようでした。これを見ながら、私もちょっと絵をやりたいなあと、そんな気持ちが湧きました。筆を動かしている時は、至福の時なんではないでしょうか。そこで一



句、『モチーフと がっぷり四つに 描く間（ま）が しあわせ時間』。私もそんな「しあわせなひととき」を味わいたいなあと思いました。みなさんも、絵にチャレンジしてみませんか。

（ナレーション：大前 小夜子）

いなみ野学園短期集中講座

「藤原正美の話し方講座」（3回講座）

ラジオ関西パーソナリティの藤原正美氏を講師に招き、発声方法、活舌など話し方の基本やフリートークのコツ長文の朗読などを講義と実習で学びます。

◇開催日・内容◇

- ①7/22（火）「話し方のキ・ホ・ン」
- ②7/29（火）「フリートークの心得・気持ちはどう伝えるか」
- ③8/5（火）「朗読・文章の読み方・伝え方」

◇時間◇

15：00～16：30

◇会場◇ 兵庫県いなみ野学園 地活第3教室
（加古川市平岡町新在家902-3）

参加者募集！



◇募集人員◇ 20名（先着順受付）

◇受講費用◇ 4,500円（全3回）

◇申し込み・問い合わせ◇

兵庫県生きがい創造協会 生涯学習部
〒675-0188 加古川市平岡町新在家902-3
電話 079-424-3380
メール inamino@hyogo-ikigai.or.jp

詳細はホームページで・・・

いなみ野学園

検索



【いなみ野学園 動画配信ホームページ】

https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html

＜編集・発行＞いなみ野学園 ビデオ制作委員会
（いなみ野学園大学院講座・研究生）

☎ 079-424-3342

